

# 要 望 書

岡山電気軌道株式会社 御中

私達は、貴社にふるさと銀河線の運行を継承していただけるよう心からお願い申し上げます。

**バス転換では「利用者が減り、便数が減り、赤字が増える」悪循環を生むだけです。**

ふるさと銀河線（銀河線）は現在の運行会社が「廃止届」を出したために、バスへの転換が進められようとしています。しかし、バスに転換しても赤字が解消することはなく、むしろ時間の不正確さや長時間の乗車、冬場の待合の寒さや運行障害によって、「利用客が減り、赤字が増え、便数が減り、また利用者が減る」という悪循環を生むだけです。

**バス転換では過疎化が進み、やがては陸の孤島になる町も。**

バス転換では銀河線沿線にある高校には学生が集まらず、やがては廃校になります。沿線外の高校へ通うことも難しくなります。病院通いのお年寄りも冬場のバスを待つことは出来ません。結局、便利な沿線外の町に人々は転出し、沿線の町々の過疎化は一挙に進み、バスも走らない陸の孤島になる町も出てきます。

ふるさと銀河線を第二の貴志川線にしてください。

**北海道運輸局は「承継会社があれば、銀河線存続は可能」といっています。**

南海電鉄貴志川線（和歌山県）は「廃止届」が出された後に、貴社が承継会社となることで、存続することができました。銀河線についても北海道運輸局が主催する「代替交通確保協議会」に対して「承継会社になります」と貴社が手を挙げていただければ、存続することが可能です。

**沿線住民の熱意と責任をお示しします。**

貴社が貴志川線の承継会社となられた背景には、沿線住民が鉄道運行への熱意と責任を示したことがあります。私たちも貴社にそうした熱意と責任をお示しするために、貴社にお立ちいただく新会社に資本参加する「株式購入運動」を推進します。

**官から民へ、マイレール意識で黒字転換をめざします。**

私達は、沿線住民の多くが貴社の株主になることで、今までの第三セクターでは持ち得なかったマイレール意識を持ち、黒字転換に向け様々な行動を行います。世界自然遺産知床を有する道東の地の利を最大限に生かし、地元観光業者、農業関係者、産業関係者と連携し新しい鉄道経営を創造します。

**沿線自治体の説得に全力を注ぎます。**

貴社に長期に安定して銀河線を運行していただくためには沿線自治体の協力が絶対に不可欠です。沿線自治体も本音では鉄道運行にメリットを感じています。バスでは絶対に黒字になりませんが、鉄道を知床＝道東観光にしっかりと位置付ければ黒字転換がありうることも理解しているはずです。ですから、私達は沿線自治体に対し、自治体が貴社と協力し、応分の負担を負うことのメリットを全力で説得してまいります。

以上、私たちの決意を表明し、貴社がふるさと銀河線の継承会社として名乗りをおあげいただけます様、心よりお願いを申し上げます。

